

令和6年 第19回全員協議会会議録

令和6年12月12日 議員控室

○事 件

町長報告事項

- (1) 令和6年度収支見通しについて（八雲総合病院）
- (2) 令和6年度収支見通しについて（熊石国保病院）
- (3) U・Iターン就職奨励金事業について（町長との協議）
- (4) 新庁舎建設実施設計の進捗状況について（新庁舎建設推進室）

○出席議員（13名）

議長	千 葉 隆 君	副議長	黒 島 竹 満 君
	赤 井 睦 美 君		佐 藤 智 子 君
	横 田 喜世志 君		大久保 建 一 君
	関 口 正 博 君		宮 本 雅 晴 君
	倉 地 清 子 君		三 澤 公 雄 君
	牧 野 仁 君		安 藤 辰 行 君
	斎 藤 實 君		

○欠席議員（1名）

能登谷 正 人 君

○出席説明員（12名）

町長	岩 村 克 詔 君	副町長	成 田 耕 治 君
総務課長	竹 内 友 身 君	財務課長	川 崎 芳 則 君
総合病院事務長	竹 内 伸 大 君	総合病院庶務課長	長谷川 信 義 君
総合病院医事課長	加 藤 貴 久 君	総合病院医療連携課長	佐々木 裕 一 君
国保病院事務長	福 原 光 一 君	商工観光労政課長	井 口 貴 光 君
新庁舎建設推進室次長	吉 田 正 樹 君	建設課長	藤 田 好 彦 君

○出席事務局職員

事務局長	野 口 義 人 君	事務局次長	成 田 真 介 君
庶務係長	千 代 貴 大 君		

◎ 開会・議長挨拶

○議長（千葉 隆君） それでは全員揃っていますので、予定より若干早いようですが、第19回の全員協議会を開催いたします。議長挨拶は割愛します。

◎ 協議事項

○議長（千葉 隆君） 早速、町長報告事項に入らせていただきます。

（1）令和6年度収支見通しについて、八雲総合病院より、ご報告をお願いいたします。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 議長、総合病院庶務課長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院庶務課長。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） それでは総合病院収支見通しについて、ご説明いたします。

まずは、令和6年度決算見込みについて説明いたします。

本決算見込みにつきましては、9月末現在、上半期の状況から今後の見通しを推計したものであり、今後の診療体制、患者動向によりましては、変動する可能性がありますことをお含みおきいただきたく存じます。

資料の1ページをご覧ください。

表上段の患者数、入院患者数につきましては、前年度決算数値を大きく下回るものと見込んでおり、外来患者数は、これまで一定程度維持してきましたが、今年度は、対前年度比で4%、落ち込むものと見込んでおります。

入院患者数が大きく減少した要因につきましては、本年2月から3月にかけて内科常勤医師3名が退職したことに加え、7月末で循環器内科常勤医師が退職となったことが大きく影響したものと考えられます。

また、手術件数の減少や分娩件数の減少が顕著となっており、加えて、精神科におきましては、国の方針もあり、社会全体の流れの中で施設入所や在宅復帰が促進され、一時的な増加は考えられますが、今後は、病床利用率は6割程度で推移するものと見込んでおります。

外来患者数につきましても、入院同様に常勤医師の退職による影響が大きいものと考えており、各方面から出張医師の診療応援をいただくことにより診療体制を維持してまいりましたが、結果として前年度を下回る見通しであります。

収益に関する特徴的な事項といたしましては、入院・外来ともに患者数の減少による影響が非常に大きく、③の入院収益及び④の外来収益を合わせた診療収益、⑤の小計は前年度比、約1億4,700万円の減となる見通しであります。

また、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類移行したことに伴い、令和6年度以降は関連補助金が皆無となったことから⑦医業外収益は、前年度と比較し約2億1,100万円の減額となる見込みでございます。

⑧特別利益1億4千万円は、医療裁判一審判決における強制執行停止申立てに係る供託金の戻し入れであり、裁判終了後、一定の手続きを経て収入されることとなります。

次に、費用の部に関しましては、特徴的な事項として、⑨給与費は、人事院勧告の増額分を見込んでおり、若年層を中心に増額となる見込みであります。

⑪経費は、物価高騰等の影響から各種価格上昇が見込まれ、⑫減価償却費の増は、昨年度更新した電子カルテシステムの整備が主な要因であります。

⑬特別損失では、先ほど収益、⑭特別利益で説明しました、裁判供託金1億4千万円の支出により前年度比、約1億2,300万円の増となっております。

Aの欄、収益総計からBの欄、費用総計を差し引いたCの欄、差引収支は、8億7,398万6千円の純損失を見込んでおります。

表下段 下から2行目、Gの欄内部留保資金は、13億6千万9千円を見込んでおります。

続きまして、総合病院収支見通しであります。

資料2ページをご覧ください。

令和11年度までの収支見通しとなります。

特徴的な事項に絞って説明いたします。

表の左に記載のマル付き数字、⑮特別利益に記載の他会計繰入金につきましては、令和2年度までは経営基盤強化対策として、基準外の繰入金としての決算実績がございましたが、計上しない見通しとしております。

⑯純利益は、令和7年度以降、現体制のままで運営することを前提とした試算であり、6億円から7億円台の純損失で推移する見通しであります。

続いて、資本的収支⑰建設改良費であります。定期的な医療機器の更新、病院経営維持に必要とされる建設改良費の計上であります。

⑱一般会計繰入金の見通しであります。令和7年度以降、12億円台を毎年度、計上する見通しとなっております。

繰入金の性質のうち、⑲基準内相当分は、地方公営企業法の規定により、特定の要件を満たす経費については、一般会計において経費負担することとされており、原則として、地方交付税を通じて一部、財源措置が行われているものであります。

なお、基準外につきましては、医療従事者の育成・確保を目的とした奨学資金貸付金に要する経費及び公営企業債のうち過去債が適用となる元利償還金につきましては、その一部を基準外として一般会計より繰り入れることとしております。

以上を踏まえた上での、⑳内部留保資金につきましては、これまでコロナ関連補助金の影響もあり、令和5年度時点では、19億2,700万円の現金保有状況とはなっておりますが、先ほど説明いたしました令和6年度の決算見込みを勘案した試算からすると、令和9年度では2億9,400万円の資金不足となる見込みであります。

今回の試算につきましては、非常に厳しい結果が見込まれる令和6年度決算見込みを大きく反映したもので、現診療体制のまま運営されることを前提とした、収支見通しとなっております。

この見通しのままで推移しますと、3年後には確実に資金不足団体に陥るものであり、この事実につきましては厳粛に受け止めているところであります。

この状況に対しましては、何らかの早急な対策、経営方針が求められるところではありますが、現段階で何か起爆剤となるような具体的な対策・方策が存在していないのが現状であります。

まずは、これまでも同様となりますが地域医療を堅持する考えの下、医師をはじめとする医療従事者の確保、これまで取り組んできた増収策等の維持、更なる増収策の追求と集患対策、費用削減、

業務の効率化など、徹底した取り組みにより、着実に経営改善に結びつけられるよう努力して参ります。

以上、大変雑ぱくではございますが、総合病院の収支見通しの説明といたします。よろしくお願いいいたします。

○議長（千葉 隆君） それでは今ご報告がございました、総合病院の収支見通しについて、議員各位からご質問等ございましたら受けてまいりたいと思いますが、何かございませんか。

○議員（横田喜世志君） はい。

○議長（千葉 隆君） 横田議員。

○議員（横田喜世志君） 聞き逃した気もするんですが、資料1⑬の中身を言ったような言わなかったような気がしたんですが、教えていただきたいと思います。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 議長、総合病院庶務課長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院庶務課長。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） ⑬の資産減耗費については説明はしていないんですが、中身としては、除却資産になります。医療器具や建物を廃棄する際に、残存分を費用化するというところで会計制度となるものです。以上でございます。

○議員（横田喜世志君） はい。

○議長（千葉 隆君） 横田議員。

○議員（横田喜世志君） じゃあ、たとえばね、使わないから除却ってことだとは思いますが、ここをちょっとパーセンテージ大きいんですね、そういう会計の処理からいって、たとえば今やらず数年に分けてとかってことを考えず、なぜ今やったのかってところがわかれば教えていただきたい。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 議長、総合病院庶務課長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院庶務課長。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 会計制度としては、たとえば医療機、器これは使わなくなつて廃棄となつた際には5年をもって除却処理するかたちになるかと思ひます。それを何年かあとにやるという方法もあるかと思ひますが、本来からいふと不適切な整備にはなるかもしれませんが、方策としてはそういったものもあると思ひます。

それと医療機器や建物、更新をする部分でどうしても古いものやそういったものを除却しないとならぬって実態もございませぬので、ご理解をいただきたいと思ひます。

○議長（千葉 隆君） ほかにございませぬか。

c はい。

○議長（千葉 隆君） 大久保議員。

○議員（大久保建一君） ちょっとこれ見てびっくりしてらるんですが、6年度の見込みでいったら入院収入と外来収入の小計、⑤のこれよりも給与費のほうが多くなつてらるんですね。自治体病院といへどこういうケースってあるんですか。ちなみに総合病院でこういうことってあつたんですか、過去。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 議長、総合病院庶務課長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院庶務課長。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） まずちょっと今、現段階での上半期の実績に基づく収支見通しですので、ちょっとどうなるかわかりませんが、まず減少した要因としてですね、先ほどもご説明いたしました、まず大きな要因としてはですね、常勤医師、今年の2月3月に退職してしまったということと、あとは循環器内科医師が退職してしまったということで、今現段階の収入の状況をこの3月までこの状況が続くとこれくらいになるということで見込んでございます。

その結果、1億なにがし相当落ち込んで、循環器内科は非常に収入が大きいので、その分費用も掛かるんですが、そういった影響もあると思います。

それと、人件費の部分ですが、先ほどもご説明いたしました、実は人事院勧告、若年層を中心に相当上げられてございます。これは民間のベースの給与水準が相当上がってるってことを踏まえて国のほうで国家公務員も上げないとならないって勧告を受けて地方自治体もなろうようなかたちになっておりますが、当院の部分で試算した結果、約1億、若年層を中心に上がると見込んでございますので、収入で1億なにがしで人件費は1億以上あがってしまうと、そういった結果になっております。以上でございます。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 議長、総合病院事務長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 人件費の部分で若干補足させていただきます。人件費比率の考え方については、医業収益に対する人件費の割合を示すものでございまして、この数年は80%を越えて、今年度の決算見込みでも9割程度となる見通しとなっております。

総務省の決算統計に基づく決算カードによりますと、他の自治体病院、全国数多の自治体病院がありますが、人件費率を100を超えている病院は当然ございまして、その中ではやはり一般会計からの繰り入れ、これに基づいて病院経営をやっとやっているという状況は制度上存在をし、制度上認められているところでございます。以上、補足となります。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○議員（斎藤 實君） はい。

○議長（千葉 隆君） 斎藤議員。

○議員（斎藤 實君） 厳しいことは今説明があったので、これを見ただけでも十二分に厳しいねというふうに思うんですけども、やはり内科医の関係でもって入院患者がやっぱり下がってるんですね。ここがやっぱりちょっと対応できていないのかなってことと、やはり全体的に今お話が合ったように、人件費比率が非常にやはり高いわけですから、これからは令和10年度までの資産も出ておりますが、やっぱり92%、94%っていうふうになると、どうしてもこの収支の改善はなかなか見込めないのかなっていうふうに考えるんです。

ただ、当初予算では42、43億予算を組むんですね、それでこれは院長一回職員の皆さんも収益に全力投球しましょうって気持ちでやってると思うんです。僕はそのところは理解してるんですが、でも結果として毎年、毎年そこに届いていかないってこの現実があるんですね。ですから、やはり今後の中でどのようにして改善したらいいのかってことはですね、相当あら表示しないと改善しないのかなと思います。

ただ、僕は国の補助、全額入れてもらって、そしてそのほかにですね、一般会計からの持ち出しをどれくらいにいいのかって、というような病院を持っているおかげで地域の経済もやはり貢献してるわけだし、そしてまた働く職員がいると税収も上がってくるというようなこともありますので、

そこの部分は理解しながらですね、一般会計から国のやつは全部入れて、一般会計から持ち出し、どれくらいでもってやったら一般会計のほうに負担かけないでやれるのかなと。そういう部分も少し今後の中で検討していただきたいなっていうふうに思うんです。

それで、八雲町の一般会計の体力であれば、これくらいまでだったら認めてもいいんじゃないかっていう部分はあっても僕はいいのかなというふうに思うんですけれども、今後の対応として町長はどうやっぱり考えますか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 斎藤議員、大変ご指摘はそのとおりだと私も思っています。それでその一般会計からの持ち出しというのは私はゼロだということを思っています。それで基準内、交付税が来る部分はあくまでも基準内で出すということになると、今のところ基準内がほしい 11 億くらいですので、一般会計の持ち出しはその中で 2 億程度はいつていますので、それくらいでしょうと。あとの 7 億から 6 億 5 戦から 7 億くらいですね。この辺はやっぱり私は国が見るのは俺は当たり前だと思っていますので、こんなこと言うのはあれですが、来週もすぐにこの要請に行く予定で取り組んでいて、国会議員にもアポを取りながら全額面倒見てくれという話は地元の同会議員も通じながらいろいろ努力しているということですので、私は一般会計の持ち出しはあくまでも基準内の 2 億程度と思っていますので、よろしく願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○議員（牧野 仁君） はい。

○議長（千葉 隆君） 牧野議員。

○議員（牧野 仁君） 先ほど事務局から大変厳しい数字見込みお話されましたが、何らかの対策もそうだし、起爆剤がないってことで、こういった数字が出るっていうのはなんか原因があると思います。やはり私が一番大事にしているのは、信用、信頼なんです、病院はやはりそこが入り口で最大私は大事なところなんです、もちろん今までの歴史から見てももちろんこれを重視してやってきてると思いますが、ここにきてこれだけ患者の数が減ってるってことは、やはりその辺のほうも部分はちょっとあるんじゃないかなって。目に見えない部分ですが。

私としては対策としてはですね、やはり機構図をちょっと見直すとか、思い切って。その部署、部署の職員も一生懸命やってると思いますが、適材適所も含めて、もうちょっと個々の職員とのマンツーマンじゃないですが、そういう面接もかねて今後どうしたらいいかと、全体でその考える機会を設けてはどうかなと思っています。私もいろいろ経営いろいろ相談受けます。そういうことをよく言うんですが、それによって改善される事業所も出てきていますので、それを是非やっていただけないかなと。働いている職員も一生懸命やってるけれども、どうしたらいいかわからない職員もいるので、もちろん事務局長ももちろんやってると思いますが、その辺の考えはどうですか。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 議長、総合病院事務長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） これまでも平成元年から経営アドバイザーを導入して様々な制度活用やその中で病棟機能の再編成、これをやってきました。この中には当然事務局だけができるものではありませんので、看護部や様々なコメディカル、診療の技術職員の力も借りて全体で取

り組んできておりました。ただここに来て、病床機能の転換や新規加算の取得や、これはもうほとんど正直に言ってやりつくした感がございます。

ただ、牧野議員がおっしゃりますように、病院職員一人ひとりのマインドがどうあるべきなのか、そのベクトルがどうあるべきかってところの統一やそういうところが大事な部分、不可欠な部分と思うので、これから持ち帰ってどういうことができるのか、私も常々足りているか足りていないかは別として各部門長ともいろいろ懇談して、私が気付いたことや、向こうから指摘を受けて他部門でこういう改善をしたほうがいいって意見の集約も日常的に行っていますが、今のご助言をいただきまして、再度こういったマインドの持ち方、意思統一のあり方、そういうところについてはさらに厳格に検討してまいりたいと思います。

それと信頼確保、これは大事なことでございます。どの業界もそうですし、当然、病院も選ばれる事業所にならなければユーザーの皆さんから心が離れてしまうってことがございますので、日常の接遇の強化、それも踏まえて行っておりますが、今一度、日常の声かけ、研修、これについて努めてまいりたいと思います。よろしくお願いたします。

○議員（牧野 仁君） よろしくお願いたします。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 今やるべきことはやったというお話を聞きました。となればですね、ここはもうちょっと奇抜な手を使わなければいけないと思うんですね。情報開示っていうか、これだけ頑張っても要するに地方の人口減ってものに基幹病院としてもこんなに苦しんでるんだってことで世間に情報開示しましょう。

医療従事者、医療資格を持っている人たちの教示にかけるっていうか、SNS で現状はこうだって、どこも苦しいから、でもどこかがやったら注目浴びます。それをよそでやられる前に、八雲町がここまで精いっぱい支えている医療をつて、なぜ医療従事者がここに来ないんだって問題提起をして、次いく病院は八雲にしようかなと思ってもらえるだとか、そういったものがき方、場合によっては思わぬハレーションで国もそういった波が地方に浸透していけば、町長が今立場をもっていろんな陳情活動するって後押しにもなるし、国会含めて動きやすいと思う。

今 103 万円の壁とかいろんなことをやってるけれども、地方医療を支えるって、そのもう一つ忘れていた原点を思い出させるきっかけとか、そのきっかけを八雲町からやるって、誰がそういうことをやるのかってなるかもしれませんが、もうやりつくしたなら奇抜な手でも世間の注目を浴びることが思いついたんですが、どうでしょう。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 議長、総合病院事務長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 情報発信のあり方につきましては、いろいろと検討させていただきたいなって思っております。良いハレーションを期待しますし、一方では不安をどうしても煽ってしまうハレーションが起きることも想定しなければならぬって考えていますので、その辺継続して検討していきたいなというふうに思っています。

この度、この総合病院の経営見通しの窮状をもって来週からですね、町長のほうで中央の要請活動をしてまいりたいと計画をされています。

今まで、総合病院関係、地域医療を守る取り組みの要望活動については、各政党や渡島町村会、北海道の町村会、そういったところの部分の一つの要望項目として陳情してきましたが、今回は改めて町長の強い意志をもって総合病院の経営、国保病院の経営を含めて、地域でどうこの医療を守っていくかってところに焦点を当てた独自の要望書を作成して、道内選出のほぼすべての国会議員のほうに要請してまいる計画でございます。

また、これが終わりました後も、たとえば八雲町単独、あるいはいろいろ政党の力を借りた中で、関係する厚生労働省やそういった省庁のほうになんとか入り口を設けていただいて、要望ができるかってことについては、追及してまいりたいなというふうに思っております。

そういう意味も含めて少し、かなりレベルの高い情報発信を含めて、それと地域の皆様に身近な情報発信を含めていろいろ検討していきたいと思っております。よろしくお願いたします。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 身近な情報発信でいったらね、ちょっとケアラー関係の、ヤングケアラー関係の調査のときに、実際に詰め寄られた部分があるんですが、八雲の総合病院にかかりたい、透析なんです、なぜ地元の病院にかかれないんだって、外に函館を含めていかなければならないってそういったケアラーを支援している人たちからぶつけられるんです。多分、医療かかっている家族は先生がいないってわかっていても、それを支援している人たちにはいないってこともわからない。地元には病院があるのになぜ地元にかかれないんだって。

そういった情報の行き届かない部分があったのかなと思っております、それがまた大きな輪になって、牧野さんが言ったように信頼、言ったってあそこは診てもらえないだとか、一度離れた人は結局、外に通院し続けますから、何でしょう。医者がいないってこともまた新しく来たってことも含めて、もう少し当事者だけではなく、八雲町民に伝わる方法がないのかなって、誤解が誤解を生むってこともあるように見受けられるので、身近な情報発信も含めて再度ちょっと工夫をしてもらいたいなと思っております。してると思っております、お願いします。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 議長、総合病院事務長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） ご指摘はごもっともだと思いますし、それは我々のアンテナもですね、低い可能性が十分あると思います。地域の中で様々な医療、介護含めて困窮されている世帯もあるように私自身も想像していますが、なかなか当事者の皆様が届けてるんだけど、私たちがキャッチできていない事例もあるかもしれません。個人情報等差し支えない範囲で、またご本人様方もお願いがあるのであれば私ども含めて個別の窓口として情報をいただいて、地元の方が地元の病院で療養できるような、そういった工夫をしてまいりたいと思っております。

どうしても医療の資源は有限ですので、全てのニーズを満たすってことは難しいってことはご理解いただいたうえで、最大限可能な限りケアをしてまいりたいと考えております。ご助言ありがとうございます。よろしくお願いたします。

○議員（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤議員。

○議員（佐藤智子君） 些末なことというか、病院からしたらよくあることなのかもしれませんが、お医者様がほかの病院にかかっている人に対して、あなたの診察はしたくないっていうのがあるっ

というんですけれども、なかなかお医者様のことだから、事務方指導できないと思うんですけれども、そういう小さなことが積み重なっていくと、患者離れも起きるんじゃないかなと思いますが、そういう事例はご存じですか。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 議長、総合病院事務長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 当院かかりつけでない患者様が、救急でいらしてる場合やそういう例はございます。それとあからさまに、たとえば最初から診療拒否をするという事例っていうのは私は今のところきいてはございません。

ただ、診療情報が適切に得られないというところがやはりある、そういうことをきっかけとして、これ以上は診療できないって事例は聞いたことはございます。ただ、あからさまに診療しないってことでしたら、それは私のほうに申し入れていただけたら院長と当該ドクターには適切に申し入れていたします。

前にも他の議員の方々からも、医師に関してはアンタッチャブルなのかという質問がございましたが、今は院長含めていろいろな課題が見えたときはその都度当該医師に対しては、院長のほうからも適切に指導していくっていうふうな実態は私も承知していますし、そのように対処してまいりたいと思います。

ただ、一つ言えることは、お互いの言い分がございます。他の一方的ないい分だけではなくて双方の言い分を聞いて行き違いもございますし、たとえば医師の言い方に対して、ものすごく凹凸ですとか乱暴に感じたっていうものもあります。それは人間と人間で、医療は人間と人間のコミュニケーションで成り立っているところもありますので、至らぬ点があれば申し出ていただいて、きちんと院長のほうに報告をして対処を考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議員（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤議員。

○議員（佐藤智子君） 誠に申し上げずらいんですが、オフレコでいいんですが、院長先生なんですよね。それで救急じゃなくて。

○議長（千葉 隆君） 個別案件として、改めてその辺は。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 別な場面で情報提供ください。大変申し訳ございません、お答えできない部分もありますので。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口議員。

○議員（関口正博君） まず今回、一般質問させていただいて、とりとめもない話になったことはまずお詫び申し上げます。国の要望だとかそういうことは確かに有効な部分だけでも、僕は全ての病院は救われなと思います。八雲ばかりが悪いわけではなくて、いろんな自治体病院が苦しんでいる中で、今こういう状況になったから助けてくれって言ってもそんなもの助けてくれません。ですから町としてできることはなんなのかってことをまず考えなければならぬ。それはやっぱり規模縮小だったりあの場でははっきり言えなかったけれども、診療科の削減やどこまで踏み込んだ、将来の医療提供体制をどうするかって目標を立てて、そこに向かって今から準備していく。

今内部留保資金があるうちに手をかけないとならないのが、そういうところだろうと思います。これは今の始まったことではなくて、慢性的な問題というものが今コロナだとかいろんなものを組

って、悪いほうに、でも八雲だけじゃないですから、やっぱり自治体としてできること。病院としてできることはいっぱいやってるだろうけれども、自治体としてできることはたくさんあるはずで、それやってきたかといったらやってきてないんですから。だからまず町長底を僕が言いたかったことと、しっかりと適正規模ってものを見極めたうえで目標を立てて今から準備していく。

だから数年の間は数年赤字が続くと思いますが、痛みが伴いますが、何とか病院を残すための協議というものをしっかりと始めていただきたい。国に頼んでももちろん大事なことで町長の役目だけれども、全ての病院は救われれないと思います。ちゃんと努力するべきだと思います。どうかその辺はよろしく願いいたします。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 関口議員おっしゃるとおりだと思っています。本当に規模を縮小するってことも想定しながら、今度は一応そういうシミュレーションしながら、何通りかやっていきたいと思いますが、いかんせん、この八雲総合病院はこの北渡島と檜山のセンター病院ということと、災害病院の指定を受けていますので、その規模のそのための補助、交付金も入っていますので、その辺しっかりと道や国に訴えながら、本当に今もらっている災害拠点、またはそのセンター病院の渡島桧山からなくしていいのかっていう問題も大きく八雲総合病院というのは占めていますので、その辺も十分に要請しながら、今関口議員さんがおっしゃっている本当でないかと外科だけでやるってそういうことも考えながら、また議員の皆さんと意見を交わしながらですね、病院のことについてもこれからも考えてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口議員。

○議員（関口正博君） また改めて申し上げさせていただきたいのは、累積欠損って債務超過になってしまった場合にはどうしようもなくなる。その関係性はプロじゃなければなかなか難しい部分あるでしょうけれども、これも町としてできることのひとつだと思いますので、適切な処理ってものを改めてお願いしたいんですけれども、よろしく願いいたします。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） その辺ですね、関口議員さんの質問があったので、総合病院と累積欠損の処理の仕方も研究してできる範囲でやっていきたいと思っていますので、ご理解をいただきたいと思います。

○議長（千葉 隆君） ほかにございませんか。

○議員（黒島竹満君） はい。

○議長（千葉 隆君） 副議長。

○議員（黒島竹満君） 今、事務長からいろいろ話を聞いてたんですが、やっぱり補助金ありきでものを考えるので、やっぱり自分たちの病院をいかにどういうふうにするかってことを町長とじっくり話をしてもっていきべきじゃないかなって思うんですね。今だったらなんか補助金を何とかして、それで対応しようっていうようなものの言い方だから、これじゃあおそろくいつまでたっても前向きには向かっていけないんじゃないかって思うんですね、その辺をどう今後考えていくのか、もしなんかあれば。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 先ほど言ったとおり、ここがセンター病院とその災害拠点病院で指定されているので、その辺のダウンサイジング、それとこの北渡島のセンター病院をなくしてもいいのかって、我々としては先ほど言ったとおり、議員さんからあったとおり、縮小してやれる範囲でっていったら失礼ですが、内科や外科だけを残して救急っていうのは大変出張医でお金がかかる部分がたくさんあるので、その辺ははずしてやるとやれる可能性は占めています、まずは我々がセンター病院って指定されているこの部分を本当に我々、北海道を絶対に守るって話もしていますので、その辺も含めて町として本当にセンター病院を外す災害拠点分外しても変な話森町みたいな小さな病院にしていくのも想定しながら、黒島副議長がおっしゃっているとおりに議論していきたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

○議員（黒島竹満君） はい。

○議長（千葉 隆君） 副議長。

○議員（黒島竹満君） 交付金の部分なんだけれども、今町長が言ったとおり、災害拠点病院だとかって部分も含めて、これ交付金が入ってるんじゃないの。この交付金がそれもし町長がさ、やめるって言ったら交付金どれくらい。やめるってなったときに、今町長が言うようにさ、交付金どの程度減るの。

（何か言う声あり）

○総合病院事務長（竹内伸大君） 議長、総合病院事務長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 直ちにですね、たとえばこの項目でいくらって細かい資料を持ち合わせていないので、回答に窮するところではありますが、たとえば地方交付税の算定においては、病床数を基本として、対費用とって簡単にいったら交付税の単価やそういうことが決まっております。たとえば全体を縮小していくと費用の削減も当然図られますが、地方交付税交付金も自動的に減っていく仕組みとなっていますので、その辺のバランスをどう取っていくかは一つ重要なポイントだと思っています。

それと、センター病院であることで、たとえば近隣の医療機関に医師や医療従事者を派遣する事業もしています。たとえば月に2度、この病院に皮膚科で派遣だとか、耳鼻科で派遣だとかもございます。そちらの補助金をいただいて、ある意味ではこれ補助金いただいたことで派遣そのものがペイするようなことにはなってございませんが、広い意味で見たら、ある一定、出張医師の人件費の補てんになっているという考え方、効果もございますので、その辺も踏まえて、どの機能をどのように整理したほうがいいのかってところは、当然それは今後検討していく課題だと思っています。

それと冒頭、副議長からありましたとおり、交付金に頼るってことは私としてもそれは戒めてございます。交付金が入ってくるからどんどんお金を使っていいってことではなくて、現状、交付金が入っていても大変厳しい財政状況、それと私の記憶では相当以前を除いては収支、黒字になったのは町立病院自体からもほぼないと思っています。そのことから大切な財源としてこの交付金や町の繰入ももちろんそうです。大切な税金として取り扱う中で適切に歳出の管理とかを含めてやってまいりたいと思っていますので、その辺は十分心がけてまいりたいと存じます。よろしくお願ひいたします。

○議員（黒島竹満君） はい。

○議長（千葉 隆君） 副議長。

○議員（黒島竹満君） いろいろ話がありましたが、まず是非ですね、今言ったとおり、改善できるものを改善して、見直せるところ見直すって部分で、あとでまた議会のほうとしてはおそらく資料提出とかって話にもなると思うんです。是非ですね、そういう場合はお願いをしたいと思いますので、よろしくどうぞ頑張ってください。

○議員（斎藤 實君） はい。

○議長（千葉 隆君） 斎藤議員。

○議員（斎藤 實君） いろいろ議論あるんですけども、やはり出張医なんかの部分もですね、お医者さんがいなくなると出張医に頼まないとない。ここが非常に僕はネックになってると感じ取ってるんですね。今、他所の町にも先生、派遣してるって言いながらも、これとて総合病院にとっては経営的にプラスになってないんですよ。僕、見方すると。

だから、その辺の二つの部分、道あたりもセンター病院っていうなら、そこの部分にもう少し手厚い部分があってもいいんじゃないかなっていうふうに思うんですね。ですから町長には是非ともですね、先生の確保、個々に力を入れてやってほしいんですね。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 先生の確保についても、しっかりとですね、院長先生といろいろ体制を持ちながらやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかにありませんか。なければ要請行動に行くのはいいんですけども、要請の内容自体が私たちもわからないんですけども、具体的にどういう文書作ってどういうふうな要望を今、問題意識して総合病院になってるかって部分については、そういうことを考えているのであれば、そういった文書をきちんと議会に見せて、どういうことが足りないのかって部分は情報共有していかないと、そういうところからやっぱりなかなか信頼関係というか、そういうのを作れないと思うので、まずはそういうのを提出、文厚のほうに提出願いたいなと思えます。

いずれにしても町理事者だけではなくて、要請行動するなら、議会も一緒にいくことはやぶさかではないし、そういった意気込みもしていかないと、大変は状況だと思いますので、よろしくお願いいいたします。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 議長さんから、ありがたいですね、私も一回議長さんに一緒に要請活動したいってことでお願いしていました。ありがとうございます。

今回、違う要件で行きますから、急遽これもちょっとジャブ的に売っていきこうって、今、与党がなっているところでちょっとまだ来年度はですね、正式に行きたいという思いもありますので、議会と一緒にしながらですね、北海道並びに省庁、そして国会議員に対して要請活動を是非一緒によろしくお願いいいたしますし、今回の要請文についてもあとでその届けますので、よろしくお願いいいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかにございませんか。なければこれで総合病院のほうは報告を終了いたします。どうもご苦労様でした。

○議長（千葉 隆君） それでは（２）令和６年度収支見通しについて、熊石国保病院からご報告をお願いいたします。

○国保病院事務長（福原光一君） 議長、国保病院事務長。

○議長（千葉 隆君） 国保病院事務長。

○国保病院事務長（福原光一君） ９月末現在の予算執行状況をもとに作成しました資料を基にご説明させていただきます。

はじめに令和６年度決算見込みについて申し上げます。資料１ページでございます。はじめに表上段の患者数です。①入院患者数、延べ患者数で１万２０６人、対前年度比９５．２％、②外来患者数は１万３、９２１人、対前年度比１０４．１％を見込んでいます。入院患者数の減少については、一日平均入院患者数は２８．０人、前年度比較一日平均で１．３人の減を見込んでおり、外来患者数については一日平均で５７．３人、前年度比較２．３人と若干の増を見込んでいるところですが、入院外来共に患者数を伸ばすことができていない状況であり、病院としては常勤医師２名体制の手薄な診療体制が影響しているものと考えています。

収益について、特記事項といたしましては、④外来収益において、大幅な減少が見込まれており、一人一日当たりの外来診療単価は１万５、２１５円、前年度比較で３、３１３円の減を見込んでいます。特に内科外来において収益の減少が大きく影響しているところですが、前年度は新型コロナウイルス感染症の地域流行により、必要な検査件数やレントゲン撮影件数が増加したことによる比較減も生じています。

続きまして費用の部です。特記事項といたしましては⑨給与費は人事院勧告と新規採用職員による増額分を見込んでございます。⑫減価償却費は、主に昨年度購入した電子カルテシステム整備分の増であり、⑯特別損失については、少額資金返還債務の免除として準看護師１名分の１２０万円を加えたものでございます。

A収益総経からB費用総経を差し引いたC差し引き収支は、１億７、４５９万３千円の純損失を見込んでいるところでございます。

評したから二段目のG内部留保資金は７、１９４万９千円で、前年度より１億４、０７６万９千円の軍資金の減少を見込んでございます。

続きまして、国保病院の収支見通し、次のページA３横型の様式です。表の左に丸数字があります。特徴的な事項について説明させていただきます。

⑯純損益です。新病院の開院後も現体制のままで運営することを前提と試算です。令和７年度は各種備品購入による増、現病院資産の除却による試算減耗費の増が見込まれることから２億８、２７１万６千円の純損失としており、以降は１億１千万から１億２千万円ほどの純損失を見込んでおります。⑱の建設改良費については、令和６年度及び令和７年度の病院建設工事、また開院時に必要な備品医療機械器具、そのほかに定期的な医療機械器具等の更新を見込んでございます。

⑳一般会計繰入金の見通しについては、令和７年度に新病院の各種備品及び医療機械の購入に対する繰入金が増え、約３億１千万円、以降は２億５千万円を予定しているところです。㉑内部留保資金については、令和６年度の７、２００万円から大変厳しい状況が続く、令和９年度には２、８００万円の資金不足が見込まれています。

この度の収支見通しは、新病院開院の令和７年度以降も現診療体制のまま、病院運営されることを前提に試算をしたものであり、大変厳しい経営状況が見込まれています。このような状況を改善

して、新病院移転後の病院運営に道筋を示すため、医師確保に重点的に取り組み、常勤医師3名体制を実現するとともに、リハビリテーション部門の本格稼働による増収策等の展開を積極的に図り、健全な内部留保資金の確保をできるように全力で努めてまいります。

以上、熊石国保病院の収支見通しの説明といたします。よろしくお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） 今報告がありました、国保病院の関係で皆さんのほうから質疑等はございませんか。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口議員。

○議員（関口正博君） 総合病院も金額はあれだけども相当不安なことが多くて、院長の今の状態、医師確保3名体制を目指すといっていますが、八雲総合病院ともどもなかなか難しい、今の院長がしっかりと健康状態を保っていてくれたらこの収支で済むのかもしれないけれども、さらに悪くなる可能性があるっていうのは、じゃあそのためにどういう体制を組んでいくかもこれまた一つの大きな課題なのかなって思いますけれども、院長どうですか、一時期健康あまりよくないっていうのがありました、今はどうですか。

○国保病院事務長（福原光一君） 議長、国保病院事務長。

○議長（千葉 隆君） 国保病院事務長。

○国保病院事務長（福原光一君） 当院の藤戸院長の体調ですが、特に今のところ問題なく診療に従事しています。現在の年齢が63歳ですので、定年を考えたあと2年ってところも踏まえて医師の招聘活動をしっかりと努めているようですが、やはり体力的に落ちているところもご自身でお話しすることもあるんですが、そこは働き方改革、そういったところの観点も踏まえてなるべく負担のかからない診療体制、また休暇も積極的に取っていただくような働きかけ等もしながら現在の診療を務めています。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口議員。

○議員（関口正博君） あらゆるところと医療連携体制っていうものを構築が本当にこれからの課題、熊石だけの問題ではないから、これ見通しに関しても、外来患者に対してもそのままの数字が出てるけれども、実際のところはもっともっと減っていく可能性は十分に秘めているでしょうし、もっと下振れする可能性はあると思いますので、それも今できる手っていうのを先手先手を特に人材確保、あと医療提携体制、どこと連携していく、当然八雲総合病院なんだけれども、熊石としてできることっていうのを模索していただきたいと思いますが、どうでしょうか、その辺。

○国保病院事務長（福原光一君） 議長、国保病院事務長。

○議長（千葉 隆君） 国保病院事務長。

○国保病院事務長（福原光一君） 関口議員がおっしゃるとおりで、まず医師の体制確保ってところを重点的に取り組んでいます。今年度は2回ほど東京のほうに成田副町長と一緒に北海道の事務所、また北海道自治体病院協議会、医師招聘のセンターも訪ねて、道内もとより道外からの医師招聘についてもお願いしているところでございます。

ここは継続してしっかりと常勤医師増員できるような招聘活動をしっかりとしていくと。病院との連携については、やはり前方支援いただいている八雲総合病院との連携強化がとても大きなポイントかと思います。今も外来診療に週に1度、外科の先生が診療応援していただいておりますので、

今後も今来ている先生が外来しながら手術が必要な地域の患者がいた場合は八雲総合病院のほうに紹介して、急性期治療を行うという連携も含めていますので、拡充できるようなかたちで検討していきたいと考えています。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○議員（倉地清子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 倉地議員。

○議員（倉地清子君） 医師の確保は相当難しいなっていうのはずっとあるので、大変だと思いますが、引き続き頑張ってもらいたいんですが、バランスっていうかスタッフに看護師だったり、いろんなそういうマンパワーっていうのはバランスっていうのはどういうのですか。

○国保病院事務長（福原光一君） 議長、国保病院事務長。

○議長（千葉 隆君） 国保病院事務長。

○国保病院事務長（福原光一君） 医師以外の看護師、医療技術職のコメディカルといったところも充足してるかっていうと、全てが充足していません。特に看護師ですね、当初より看護師の確保が非常に難しい状況が続いており、将来的に厳しいという状況が十分考えられるので、新病院の病床規模を考えたときに、ちょっとその要因として将来的に看護師の確保が厳しいのは重々想定できると。ただ少ない看護師でも病棟運営ができる病床数に設定というそういった理由もございまして30床で設定させていただいております。

ですので、今後の総合病院の看護師の数は看護師のコマ数って勤務形態についても充足できるのかなと見込んでいますが、余裕を持った休息をとらせるとか、働き方改革で一人ひとりの負担を軽減させるとかを目的に1名ないし2名の増員、また継続的に民間の派遣看護師の応援を受けながら体制を今維持しているって状況でございますので、ほかのコメディカル、医療技術職の招へい活動についても特に薬剤師、また新病院で本格稼働を考えているリハビリの職員、本年7月から役1名勤務していますが、やはり本格稼働を考えるには2名体制が必要ということでこの辺の招聘活動をしっかりと行って行きたいと考えています。

○議員（倉地清子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 倉地議員。

○議員（倉地清子君） 今ちょうど良かった（聞き取り不能）、一人ってことで先ほど言ってくれたような、一人では大変だと思うので、その人数を集めるっていうのはすごくいかに大変かということですが、大変ですが頑張ってください。

○議長（千葉 隆君） ほかに。なければこれで終わりたいと思います。

12時過ぎていきますので、一旦お昼休憩にさせていただきます。よろしく願いいたします。

<<休憩>>

<<再開>>

○議長（千葉 隆君） それでは、若干早いんですが、午前中に引き続き全協を開催いたします。

それでは（3）U・Iターン奨励金事業について、総務経済委員長から町側へ委員会の総意というか考え方をお話させていただきますので、よろしく願いいたします。

○10 番（安藤辰行君） 昨日総務委員会です、U・I ターン就職奨励金事業の再検討の結果の報告で、前回の内容より厳しいものでした。そこで委員会全員の総意のもと、まずは激変緩和措置を外さずに、この事業を続けながら効果的な施策について検討していただきたいということで、一般質問でもU・I ターンの質問が出ていましたが、町長の本会議での答弁と委員会への結果報告との信ぴょう性が欠けるので、委員会としては全協にゆだねて町長に答弁を求めることといたしました。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 今回の議会の終わりでも議員の皆さんも意見を十分に尊重して、これから町政執行するというふうになりますし、昨日の常任委員会もしっかりと私も聞かせていただきましたので、来年度はですね、今年と全く同じ方法で1年やると。

ただし、この1年の中でこの30万円、20万円出すのはどういう影響があるのか、さらにこれからどのようにこれを継続しながら、U・I ターンに八雲町に移住定住の定着できる政策にしていきたいと思っていますので、来年度はやるということでご理解をいただきたいと思います。

○議長（千葉 隆君） つきまして、皆さん議員のほうから何かございませんか。

○議員（大久保健一君） はい。

○議長（千葉 隆君） 大久保議員。

○議員（大久保健一君） 今の答弁でちょっとお聞きしたいんですが、1年間で検証すると、その次の年には検証を踏まえてどうしていくかって決めていくってことだけれども、それはやめる前提ではないってことですね。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 先ほど言ったとおり、議員の皆さんからも珍しく政策的にこんなに褒められるっていうのは私もびっくりしていますので、これは続けるってことを前提に、ただ、出し方だとかっていうのを、貰ったらすぐ辞めるとかって話も聞いているので、その辺、業者並びに常任委員会の意見も尊重しながら来年度以降は組んでいきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○議員（赤井睦美君） はい。

○議長（千葉 隆君） 赤井議員。

○議員（赤井睦美君） 私も続けていただけるのは賛成です。うちの職場でもとても有効活用させていただいております。でも昨日の課長の説明で660万円が消えたって聞くと、一般町民からしたら660万円って残ったほうを考える。辞めちゃった人の数でいくと660万円は丸々損したことになるわけで、配り方の工夫、4月に来たからすぐにあげて、はい、さようならって、やっぱり、だいたい私たちの頭では辞めるとかってことを想定されてなかったのですぐに賛成したけれども、あとは配り方が大事だなって。

あと、総合病院の奨学金、3年間働いたら返さなくていいけど、途中でいなくなったら返してっていうのもあっていいのかなと思いましたが、その辺、何がいいのか私はわからないので、調査していただけたらと思います。よろしく願いいたします。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） そういう意見ですね、商工会からもそういう意見もたくさんあったので、ただ私は止まって見直したほうがいいと思いましたが、議員の皆さんは続けたほうがいいって言うのと、これ継続することによって新しい雇用が生まれてくるってことであるので、まったくこれを変えるにしてもどんな変え方をするかは議論していないので、来年度でありますので、同じく継続して問題点を改善しながら引き続きやりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

総務でやっていたのはもう少し議論するU・Iターンの幅も広げてってこともありますので、そういうかたちで町長からの報告を受けたので、これで三番のU・Iターンについてはよろしいですね。

（「はい」という声あり）

○議長（千葉 隆君） どうもありがとうございました。

それでは（４）新庁舎建設実施設計の進捗状況について、新庁舎建設推進室のほうからご報告をお願いいたします。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） この新庁舎についても今回の一般質問等々、また議員の意見を聞きますと、町民の中でもいろんな意見があるので、特にですね、間取りとか、いろんなものは中身については公民館使う人は議会とも十分議論しましたが、やはり一番は屋根の部分、これはですね、議員の皆さんから金がかかるんじゃないかだとか、設計屋さんのやったものは外部の木が腐るって報道があって不安があるってことですので、この新庁舎の建築についてはいったん立ち止まると。

いったん立ち止まって、この立ち止まってどんなかたちがいいのか。さらにですね、まったくゼロにしてしまうとかなりのお金の損失が出るので、多分今の我々としても、こんなかたちのほうがいいんじゃないか、こんなのがいいんじゃないかっていうのはあると思いますが、ただ議員の皆さんも判断できないと思いますので、我々もちょっとこれがあまり遅れると本当に莫大なお金を損失するので、その辺吟味しながら、今の設計屋さんに相談して、こんなかたちなら、これくらいの影響で済むとか、これだったらもっと影響があるだとか、この案ならどうだとか、なるべく早めに招集しながら、また皆さんに工程表も説明しようと思いましたが、これはなかなかですね、今そういうことですので、なるべく早めに全協また開いていただいて、議員の皆さんに説明して、その判断をまた議員の皆さんにさせていただいて、この新庁舎については一旦立ち止まると。

それで皆さんの議論を得て進めたいということで、昨日から私もいつも言っていますが、反省しきりは本当に寝れなくて、本当だよなって思いながら、佐藤さんのもうやめるっていうのも聞こえながら感じていましたので、先ほどですね、本議会の定例会の最後にも本当に議員の皆さんの意見を十分に尊重してってことに私も徹したので、この件についてはもう少し時間をいただいて、皆さんの判断を得るようなものを提出して意見をいただきたいと思いますがお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） 今、町長のほうから。一旦立ち止まるっていうのは、具体的にどここの部分を指していますか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 皆さんから言われている屋根の部分、この中身については替えるのは私はかなり設計も全部やり直してプロポーザルからいうと2年も3年も町民説明会もあるので、それは現実的ではないと思っていますので、皆さんが心配している屋根の部分をどう変えたほうがいいのか、これくらいの影響があるってことも含めて説明して、また議員の皆さんに判断していただきたいってことで、屋根の部分ってことでご理解いただきたいと思います。

○議長（千葉 隆君） そういうことですが、皆さんご意見質問。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 今とても柔軟な発言を聞いたんですが、一つ私たちここまで議会議論この場でいろいろ考えようといった一つのポイントは、3月の予算委員会に計上されるであろう新庁舎のことがあるので、それが一つの我々としてのタイムリミットっていうかアクションの場面なので、なので今の見直し案や見直し工程なんかをその3月定例会前にある程度示してもらわないと、我々にとっての一つの判断アクションする時期が3月だと思って今まで議論しようとしていましたから、その時期の明確化っていうのもある程度必要だと思ったりして今聞いていましたが、どうでしょう。

○議長（千葉 隆君） まずは、いずれにしても町のほうが政治的な判断、政策変更だから、それをここまで来た段階で、町長の政治判断をしたわけですから、ある程度、実施設計もほとんど済んでるし、積算の部分やってるから、ある程度、設計事業者にやって、ある程度、時間を持たせないとならないので、おそらく今町長が言っているのはタイムスケジュール等も変更になるかわからないし、今の段階でそういう日程的な部分を示されないから、あくまでもまずは町の考え方を設計事務所に言って、一旦どういうかたちになるのかを協議したうえで早急に、急いでるわけだから、町側も急いでいるって認識をもとに検討の案を出すってことだと思うので、その辺も含めて柔軟に対応しないと、今の段階では町だっけいつ出すとかってこともできないし、当然、若干タイムスケジュール的にはずれるということも、ずれるくらい大きな変更だと思うんです。

だから、その辺も含めて、ただ早急に提案できるものも含めて早めに議会側に提出するってことだと思っています。そういうことでの提案と受け止めてよろしいですね。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 議長さんのおっしゃるとおりです。多分ですね、実施設計は契約しているので、これから先の変更っていうのは少し費用もかかるような、それでも変えたほうがいいっていうのは多分皆さんの意見だと思うので、多少、設計変更を、ただそれが設計にいくらかかるのか、期間がどれくらいかかるのか、これくらい変更したらこれくらいかかる、これだったらこれで収まるって判断材料をまず我々もそうですが、議員の皆さんもわからないと判断ができないので、そのようにしたいってお願いですので、よろしく願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○議員（黒島竹満君） はい。

○議長（千葉 隆君） 副議長。

○議員（黒島竹満君） ちょっと延期して考えるっていうのは、大変いいことだと思います。ただ、やっぱり今屋根の部分っていう部分あったんですが、その前にやっぱり町民の意見、町民の話をよ

く聞くと、結局今財政改革っていうことで、これからいろんな部分継続なりしてやっていくときに、この庁舎を建てるとして部分については、相当、町民が感じている部分があるんですね。

だから、やっぱりその部分を踏まえてですね、屋根ばかりではなくして、中の内装工事も、これ内装工事であればそんなに設計変更って話にもならないと思うんですね。内装なんかでもこの間互理町に行って庁舎見たときに、互理町の一階の部分はきちんと天井も貼ってるいいもの使ってる。しかし二階、三階になると天井も貼ってない。だからあんな方式ですね、やっぱりもっと考えたら落ちていくと思うんです。

それともう一点、議会の議場の限の天井、面彫り。あれだけでも相当お金がかかると思うんです。そういう部分もよく設計屋と打ち合わせして、その辺も取れるもの取って、なるべくそれこそ安く立て直すって方法で考えたほうがいいんじゃないかなって思うんです。町民の意見はほぼそういう意見のほうがこれから強くなっていくと思うので、それに合わせたかたちで、是非見直してほしいなと思います。

○議長（千葉 隆君） 追加で副議長が言いましたが、斫り彫りをイメージした議会の天井ね、やっぱりその辺は議会としては完全に消してくださいって。やっぱりそこだけ残したら議会も結構批判される状況があるので、ある程度そこも含めて副議長言うように議会自らやめてほしいっていう話もある程度主だった議運のメンバーと話をしながら、やっぱり議会のところがやっぱり目立つから、そこもお願いしたいなってことも要望としてお伝えします。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） そのとおりで、今、副議長さんの言うとおり、私も少し建築わかっていますので、今回も実施設計の中で金額が上がってくるのははっきりしているので、変な話、副議長さんと同じ考えで、それこそクロスも貼らなくていいから値段下げられてことで今までもやってきましたし、当初、誰が設計とつても役場庁舎の建築費用で、ここで言っちゃっていいと思いますが、結局 50 億超えてきたんですね、結構。これはさっき黒島さんが言っているとおり、クロスも貼らなくていい、隈なんて言うのはいつからやめてるし、屋根もいつからやめて、そういうこともやっています。天井も貼らなくていいってことで、その辺も含めて私も精力的にやっていきたい。

ただ、こっち側の庁舎は、議会側はですね、耐震化もできていいのですが、向こう側の耐震化ができていないのと、これ以上ここにいたらエアコンやいろんなものにお金がかかってくるので、その辺、町民の皆さんにもご理解いただけるように、議員の皆さんもどうか、そういうかたちで一生懸命絞ってやってるってことも理解いただきながら、早めに提案させていただいて議員の皆さんと情報共有しながら新庁舎については進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかに議員のほうから何かございませんか。

ちょっと余談なんですけど、新庁舎もいいんですが、月曜日の日のこれから冬きたらね、寒いんですよ。だから土日、なんというかボイラー減らしてるのかどうかわかりませんが。

○町長（岩村克詔君） 消しています。

○議長（千葉 隆君） やっぱりある程度、月曜日の朝からさ、一生懸命働けるような温度環境は作ってほしいなって。それでないとやっぱり冬だからさ、やっぱりかなりこれから強くなるので、我々も若い職員の風当たりが強くなるないように、それだけはそのことも暖房かかるかもしれない

けれども。月曜日の日に来たらさ、寒くて、夕方までかかっているんだよね、温度。ちょっと町長のほうから。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 議長さんのおっしゃるとおり、議会の皆さんは多分議会のとき、私たちは毎週月曜日は憂鬱なんです。朝から寒いわ、そして愚痴ですが、昼になったら暖房止めるんです。飯食ったあと寒くて入れてもらえるようになったので、確かに役場庁舎は古いつてもあってその辺は守衛さんにでも朝早く暖房入れるような調整もしながら、本当の冬の期間、休みの次の日が一番寒いんですよ。その辺も、議長さんからいい意見をいただいたので、そのようにしていきたいと思っていますので、お願いいたします。

○議長（千葉 隆君） そういうことで、皆さんよろしいですか、あと良かったら。良いお年を。

○町長（岩村克詔君） これからの議会の皆さんの意見を十分に尊重して、あと10か月進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） それではその他のほうで、今日受けました、ある程度、町のほうから報告を受けましたが、(3) U・I ターンの部分については、次年度変更となるので、引き続き総務経済のほうでどういう制度設計をするかを含めて、提案を待つんじゃなくて自分たちのそういう意見をこういうふうな制度設計したほうがいいんじゃないかってことも含めて、理事者に要求するだけではなくて自分たちの案も考えてほしいなっています。

それと、新庁舎の件については、いずれにしても設計屋さんとの協議しないと、町のほうから提案されませんので、いずれにしても大屋根も中屋根もなくなった認識でという。そういう認識だよ。大屋根がないってことはもう。

(何か言う声あり)

○議長（千葉 隆君） いずれにしても町民の皆さんも関心ごとがあるので、これまでの設計を変更するってことで、新たな外観での提案を受けるってことで、少し外観についてはお待ちくださいってお伝え願いながら、今まではきっと明らかに違った外観になるということを希望して今年度はまずめでたしめでたしってことで。

○議員（三澤公雄君） これから詰めた予算と大屋根を否定された中で隈研吾さんらしさを出すのかな。

○議長（千葉 隆君） いずれにしてもこれまで議運でいろいろ皆さんで揉んだり、あるいは一般質問で昨日も私のところにも3件電話で、すごい一般質問、今までにないくらい議会で気合入っている一般質問でしたとか、プロポーザルについてなんで今やっているんだとか、そういうことも含めて褒められたような一般質問に対して3件くらい電話来てた。ある程度議会のほうで町民の意見を集約して、それからこういうふうな場面に来たときは、議会はそのあとどういう決意をもって挑めば政策変更もなるんだって部分もあるので、こういった状況も含めて皆さんの成果だと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

それともう一点、(1)と(2)の総合病院と国保病院の部分、今日報告を受けましたが、収支の見通しがこっこのほうは一般会計の部分は町長が言うようにかたく見積もって収入が少なくってというような中で収支計画作っているけれども、明らかに総合病院と国保病院の部分については、歳出、

支出、支出に基づいて収入を計上している。よって、この収支見通しってというのがあてにならないんじゃないのかってことが大方の議員さんの意見かなというふうに思います。

それと一般質問で専門的な部分とか展望も含めて関口議員さんお話していただく、一般質問していただきましたが、ダウンサイジングについても注視しながら考えるみたいな話もしていました。ただ、今までかつてないくらい両病院が状況悪いし、新築した国保病院も人口減とそれから新築した部分を抱え込んでこれから経営していかないとないって部分も含めて、一定程度やっぱり議会のほうもなんとかしないとならないって意識はあると思うんですね。

それで、町のほうは一方、国のほう、国会議員の部分を含めて制度の部分をもう少しお金を頂戴ってことで陳情するっていうけれども、全国で905の自治体病院があるんです。自治体病院だけで905。それで八雲町の病院だけがその中でセンター病院になってるわけではない。八雲町の病院だけに特化してお金をくれる、陳情したからといって急に1、2年の間に補助金がもらえるっていうような状況は極めて難しい状況も認識したとしたら、ある程度議会のほうも内部で改革するって言うけれども、そういった部分さっき言ったように、陳情するさ、内容の部分も教えない。やっぱりある程度昨日副議長と議運の委員長と話をしたんだけど、ある程度特別委員会は時期は別にしても設置しながら、議会のほうも状況っていうのを把握する必要があるんじゃないのかなって。それで、とりわけ例えばの話ですが、各科の先生が内科の先生と循環器の先生、去年いなくなったとか、それでそしたらその内科の部分で収支どうなってるのって。

だから、そもそも内科の収支ってどうなのって、外科の収支どうなのってことで、13科ある中の収支も過去5年間と今後の見通し、ないわけないんだわ。その集約がこのやつだから。だから足し算だから。だからそういう部分もしっかりと出してもらうだとか、人口の部分が増減あるなら、八雲町のこれまで他町村からどれくらい病院の外来で来てるんですかって、それは各科でどれくらい来てるんですかって。それがほかの地域の人口減少で今後どうなっているのかとか、資料はあるはずなんだわ。そういった部分でやっぱり資料請求もなかなかその各科の部分に請求しても、ああでもないこうでもないってことで、今までもらえなかった。出してこないんだわ。だから文厚でやってもきっと出てこないと思う。

○議員（牧野 仁君） それもおかしい話。

○議長（千葉 隆君） 求めてきてないけれども、過去に特別委員会作ったときも求めたけれども出してもらえなかった。

でも、ここまで来たら相当我々も分析したり、そういうことも必要かなとか、それから今自治体病院の会長さんが変わったんだけど、それまで砂川病院の名誉院長さんが去年まで自治体病院の会長だったんだけど。

今は八幡市の病院長で望月さんって会長になってるんですけど、その会長さんは岩手県立中央病院の病院を改革した先生で、その人が今会長になってるんですが、ここの岩手県の中央病院は57億円の累積欠損金があったんだけど、それはV字回復した有名な先生で、自治体病院の協議会で今どういうふうなことを訴えてるかっていったのが昨日の新聞でも政府のほうでもやるっていった、他の病院に出張した部分については診療報酬でももらえるって。

包括ケアの部分も地域の報告義務をやるか、そういった部分も自治体病院協議会もある程度そういう経営の分野についてやってるんだけど、その自治体病院協議会でさえ、その前の副会長さんが要は独立行政法人化するのも選択肢の一つだってことも言っていたり、やっぱりいろいろ

まだ総合病院が手を付けてないやり方とか、いろいろあるはずなんだよね。データに基づく分析っていうか、電池マークだとかやってどうのこうのとかあるんだわ。そういうことも少し議会側で勉強しながら一般質問でいった関口議員さん言ってた地域連携の。

○議員（関口正博君） 連携法人。

○議長（千葉 隆君） それは二次医療圏の部分でやっていかないとならないんだけど、檜山で作ってる。道立江差病院中心にやってるんだけど、今そっちは道立な部分だから動いてない。だからやらなければならないことはたくさんあるんだけど、実際はほとんど手を付けてない状態あるので、積極的にやっぱり特別委員会作ってもすぐは我々の議会としての特別委員会は機能しないと思う。

だから、半年なら半年、1年なら1年、自分たちでいろんなこと勉強したり視察して、それで改選期まで10月だから、でも視察したこと、勉強したことは中間報告でやって、次の部分にいろいろ提言することをしていかないと、議会のほうも間に合わないと思う。だからみんな今更、今から改革しても間に合わないと思ってるから、間に合わないんだわ。

今のこの悪い病院の経営状況の中ですぐに来年再来年回復する状況にならないから、我々も少し特別委員会を作っても追求型の委員会じゃなくて、少し自分たちで勉強して、ある程度、本当にこういうことやらないと駄目だとか、ここやらないとならないだとかいうのも自分たちのものとしてやれるような特別委員会を作ったほうが、作って提言していかないと、動かない部分もあるんでないかなって。

というのは、今回屋根の部分も含めて、自分たちが少し熱入れて集中的にやって、ある程度全体化していけばやっぱり行政だって動くんだから、そういう部分なかなか聖域の総合病院って部分で個々の議員さんが一生懸命質問しても限界もあるし、三人の中では特別委員会を作ったほうがいいんじゃないかって言ってたんですが、皆さんどうですかね。

○議員（赤井睦美君） はい。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○議員（赤井睦美君） 私たちも関口さんの質問終わったあとに、まず議員がもっと勉強しないと駄目だねって、みんなの都合に合わせるとなかなか出発できないから、まずやっていって参加できる人たちがやりながら勉強していくって話はしていたんですね、だから特別委員会はもちろんいいんですが、まずは勉強会、先ほどの自治体病院の会長さんのお話とかもし聞けるなら聞いてみたいし、勉強会したいと思います。

○議長（千葉 隆君） 今3人だけの話なんだけれども、全員でやらないほうがいいんじゃないかなと思った。思ったってわけではなくて、資料だとかそういうのはみんなにやるんだけど、ある程度、絞ってやったほうがいいのかなって。

○議員（三澤公雄君） 今、赤井さんが言ったような方向付けを専門チームでやってもらって、全員で共有するときは全員で共有して、得意な人たちといたら悪いけれども、その関心の強い人たちが特別委員会、チーム作って、導いてもらうってイメージで話をしていました。

○議長（千葉 隆君） だから前の会長さんは砂川の名誉院長だからそういう人たちだったらあまりお金かからないで、逆に行けるとか、できるかは別だよ。ある程度そういう部分でプロジェクトではないけれども、特別委員会ってつけないと調査権もないし、ある程度次年度へ向けて、逆に言

ったら予算を付けてもらおうかなって。いろんな人の話も聞かないとならないし、見にも行ったほうがいい。いろんな病院をピックアップして。

だから、その会長さんをお願いできるのかとか、違う人もいるし、そういう専門に業者もいるんだわ、やっぱり。経営コンサルの。だから、そういうところの人を呼ぶのもいいだろうし、そういうのを勉強会でどういうふうにして勉強するかとか、まず勉強することから始めないと、この分野はなかなか難しい、議会であれやれこれやれって、今現状違うから。改革する、今も改革し続けているプロジェクトチームが病院内の中にきちんと存在していないと駄目な時期。病院の中にも何部門も柱立てて。それがいないだもん、今。それが今事務長が聞き取りして部長に話をしました、そういう感じで今日聞いていたでしょ。だから全体でやらないとなんない、病院の。

だから、トップダウンとボトムアップがマッチして、方針はトップがこういうふうにやりますって方針作って、それを各部門を作ってやるとか、いろいろやり方あるけれども、そういうのがさ、ただ加算の報酬改定の加算だけは点数とるためにやるって。それどこの施設でもどこの病院でも報酬改定のたびにやるから。報酬改定になったら新たに出てくる。

それは、どこでもやってることだから、ほとんどやられてないから、ある程度5人に絞るのか8人に絞るのかは手上げ方式にして、そういう感じで詳細については議運にまかせて議論してもいいですか。

○議員（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤議員。

○議員（佐藤智子君） そういう今、議長がおっしゃったこと全部前提にして、特別委員会も作るのはやぶさかではありませんが、私自身はダウンサイジングに対しては抵抗があるんです。それでちょっと申し訳ないけれども最後まで聞いて。病院のことを勉強するのはすごく大事だし、本当に全然そういう知識も身につけてないので、自分自身もやっていかないとならないことなんでしょう。

八雲町の中の病院として、人口減少にも絡むけれども、また子どもの数とかにも絡んでくるけれども、病院があることで雇用が生まれて、給与で非常にお金がかかっているけれども、そこから税金もどれくらいの税金がそういう病院の関係者から入っているのかっていうのも知っておいたほうがいいと思うし、その総合病院関係者の家族が八雲町に住んで買い物もして生活していくってことも考えながら病院のことを突き詰めていくってことが必要だと思うんです。自分の意見として行っておきます。

○議長（千葉 隆君） 佐藤議員さんの、俺も20年くらい前、同じ発想で、20年くらい前はそういう考え方だった。でも間違えていた。何が間違えていたかといったら、それだけでやっていったら、たとえば小樽の病院、小樽市にも病院二つあったけれども、結局一つに集約してるんだよね。

それで、それが結局、病院と地域医療を守る経営の強化になるさ。ダウンサイジングって。ダウンサイジングっていうのは、縮小して地域医療を、縮小するっていうのは人口が少なくなるから、5万人の患者さんを受け入れる、5万人の住民がいて5万人になったけれども、受け入れるのを守ろうとして5万人の部分やったんだけど、実質何年か経って3万人しかいなかったと。そしたら、3万人に合わせた病院の強化をするっていうのが今のダウンサイジング。

だから、そのまま5万人でやっていたら2万人のロスが出てくる。それがそのまま放置していたら病院の負債が大きくなる。そして欠損金が多くなるんだわ。要は無駄なことしてるから。だから

自治体病院協議会は地域医療を守るってことで自治体病院協議会を作ってるのさ。自治体病院の協議会を作ってる。だって自治体の病院の集まりだから。

なぜ、そこでもダウンサイジングのことを真剣に議論して、どういう適正な病院で、地域の医療を守るためにどういう方法でダウンサイジングしていくかってことを研究してるんだから。だから否定はしない。だからやっぱりどうしても人口減少に立ち向かうためにはやっぱり税収も少なくなる。だから病院の収入も少なくなる。病院の収入少ない中でどうやって地域医療を守るかをきちんとデータに基づいてきちんとやっていかないと。

結局、負債だけが多くなって、結局は破綻してしまうっていう状況を回避する。だからそういうことも含めて勉強しなきゃならないんじゃないかと思うんだよね。だからそのダウンサイジングするからって言って、できないのさ、もう、八雲町は。国保病院建てたばかりだから。だからって国保病院をダウンサイジングって言ってなくして一つにしますかって、そういうやり方じゃないわけだ。

だから、国保病院も地域の医療としてどうやって残していくのは、総合病院もどうやって残していくのか、そこの部分のダウンサイジングの方法も含めて、佐藤議員さんの思いがあるなら特別委員会の中の一因になって勉強して追求していったほうが地域の医療を守れると思う。だからサイズを小さくすることを目的ではなくて、地域の医療ニーズにいかにか必要か、高い質を確保して病院を残すかっていうのが目的なんだから。そこのところ俺たちが、たとえばなんでも削減って言葉みたいじゃなくて、やっぱり経営強化する。

そして、そこの病院を地域の医療を守っていくっていうか、そういう発想にならないと、ただダウンサイジングするから反対だってことにはもう時代が許さなくなるくらいに、人口減少してしまってるのさ。だから勉強するだけでも参加してほしいと思う。

○議員（黒島竹満君） はい。

○議長（千葉 隆君） 副議長。

○議員（黒島竹満君） 勉強が一番大事なことだけれども、勉強するためにはやっぱり資料を求めたときに、資料をちゃんと出してくるかって部分が一番大きい問題だと思う。そうするとやっぱり特別委員会を設置して、資料を請求するとか、資料を出してもらって方法をとっていかないと、なかなか勉強に繋がっていかない部分が出てくると思う。

それで、自治体病院で函館の市立病院も一時赤字で、それで議会が乗り出してから黒字になったんだよね。一時、黒字になった時期がある。それと滝川もそうだし、滝川も議員が動き出して赤字から黒字に展開されてる。やっぱりそんなかたちで議会がやっぱり出ていかないと、今の赤字をどうやって抑えるかって部分を、やっぱり議会から持っていくと、おそらく解消できない。

だから、早いうちに今の段階なら見直せる部分があると思うから、そういう部分をするためにはやっぱり勉強とそれと特別委員会を設置して資料請求をとにかく出してもらってかたちをとらないと駄目だと思う。

○議員（赤井睦美君） 町財政がしっかりとしている地域、本当に。これ以上駄目になったら。

○議長（千葉 隆君） 国保病院、内部留保3年っていうけれども、怪しいと思う。だからもうちょっと国保病院も繰入、早い段階でしていかないとならないし、総合病院も同じような状況に。どっちみち国保病院も2年半くらいで内部留保なくなるのは、もうみんな同じだと思う。意識はね。

○議員（大久保建一君） あんなに厳しく一般財政試算作る町がよくあんな楽観的な試算作ったね。

- 議員（横田喜世志君） もっと悲惨な状況だった。
- 議長（千葉 隆君） 違う違う。元々病院は歳出に合わせて予算作ってるから、それは踏襲してきてるから、結局もう一つの収支見通しがあるのさ。
- 議員（大久保健一君） 自治体の。議会に出す用ではなくて。
- 議長（千葉 隆君） だからお客様でいないように、我々もちゃんと変革というか経営強化の部分に本格的にチームで乗り出さないと、なかなかね、それと単に応援団って意識なら駄目だと思う。病院に対しては。ある程度厳しくやらないと資料一つもらえない。
- 議員（関口正博君） 議長が言うように、特別委員会の前にはちゃんと集中的にこのことについて勉強するチームがあって、それで勉強した結果を特別委員会にあげるって。
- 議長（千葉 隆君） 違う。特別委員会を最初から作って。
- 議員（三澤公雄君） だから全員が入る特別委員会ではなくて、小回りの利く特別委員会にしましょうって。
- 議長（千葉 隆君） 7人なら7人、8人なら8人の手上げ方式で。議運やるようにして、ちょっと俺たちの中ではもう少し庁舎の部分、粘ってくると思ったから、少しいろんなこと考えてたのさ、業界団体と話し合うってことだとか、町連協と話し合うだとか、それでもなくなったらどうだとか、いろんな方式描いてたけれども、それなくなったから少し余裕をもってちょっと。頑張ってくるって。やっぱりここに集中できると思うので、1月に議運を開くので、そこのところにある程度各会派の手上げ方式でやりたいって人手を上げてくれた部分で、そのメンバーで固定しないで手上げで決めようかなって。決めてもらいたいなって。当然、俺は入れないからあれなんだけれども。それ特別委員会作ってその中でまず勉強しないと、お金もつかないし。
- 議長（千葉 隆君） だからお金もつかないし、調査にも行けないし、呼ぶにも呼べないし、次年度へ向けて逆に言ったら少し特別委員会の予算要求は少し多めにももらえるようなかたちをとったほうがいいと思う。
- 議員（佐藤智子君） 斎藤さん何か言いたいことあるんじゃないの。
- 議員（斎藤 實君） 勉強は結構です。僕も普段から病院経営の部分については勉強しています。ただね、さっき町長言って議長も言ったんだけど中小じゃないんだよね。まず北海道を動かしてそういう部分をガチッと固めて、全国的なものにしていかないと、国の予算では無理。単独で言って八雲町だけくださいってということにはってならない感じがする。
- 議長（千葉 隆君） 905 あったら、半分は中小の国保病院だから。だから残りの半分は都市型病院だから、八雲の部分はあまり、八雲の町の規模でこれくらいの病院を持っているのは逆にいったら珍しいから。でも二つの病院を持っていて特殊性もあるから。
- 議員（斎藤 實君） 一つ、先生来ていたでしょ、コンサル。僕ら病院やるときに議長もわかっていると思うけれども、それまで病院の維持の部分、計算してかかった人の計算して、会計に回すってその部分ね、民間で頼んでいたのさ。それが直営でやらないと駄目だっていって、職員にしたのさ。川代さんのときだよ。それで職員になっちゃったから。ただそれを進言したのは伊庭先生。
- 議員（佐藤智子君） 困ったね、それ。
- 議員（斎藤 實君） だから僕そのときにそれやったらお金貸さないって。町職員にしてしまったらどんどん出ますって。だけどそのときの病院の改革でやっぱり専門家がこれは駄目ですって

うことで。だから20人くらいいるけれども、いろいろ先生はついてる人たちもいるから、計算だけだったら半分くらいかな。だから相当、中身についてはみんなで勉強しないと。

○議長（千葉 隆君） 委託でやってたことを直営に戻したり、直営でやっているのを委託のほうがいいっていろいろそこら辺はいろいろあると思うので。斎藤議員さんが言ったのはニチイさんに医療事務やらせていた部分を直営に戻しただけの話。いろんなことを含めてそういう方向性で、あとは議運で議論していきたいと思いますので、議運の委員長を中心にまたまとめてもらうのと、各々各会派の代表のほうに自分になりたいっていうのは申し出てお願いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。時期も含めて。

あとほかに皆さんから何かありますか。

（「なし」という声あり）

○議長（千葉 隆君） なければこれで全協終わって、今日は午後6時、その他で。

ちょっとSNSの関係。

○議員（三澤公雄君） 事務局からその他です。

○議会事務局長（野口義人君） 今回の一般質問で、三澤議員から次期選挙へ向けたSNSの活用という質問が出ていました。それを受けて皆様方、次回の選挙に出られる方については自分たちも対象になるってことで、申し合わせ事項ってことで、一定程度、何かしら素案を作ったほうがいいって話題が議運の中で出ました。それで使う部分、活用の部分をあわせて、しっかり練って素案を作っていきたいと思いますので、チームのメンバー等々については議運の中で一定程度選定したいと思っています。今のところ庁舎のDXのメンバーが4名おりますので、その方を中心にと考えていますので、どうぞよろしくお願いたします。

○議長（千葉 隆君） そのことについて、今どきの選挙で見たら、いろんな誹謗中傷やデマだとか、いろんな部分があるんですが、我々の選挙は5日間しかないんで、逆に言えばそういうことが発覚したときには選挙が終わっている状況になることが明らかかっていうか、そういうことのないようにある程度ルール作りだとか申し合わせ事項的な部分、法で規制できない状況の中どういうふうにやったらいいのかを検討してもらってことでよろしいでしょうか。

（「はい」という声あり）

○議長（千葉 隆君） そういうことでよろしくお願いたします。

○議会事務局長（野口義人君） 次に文教厚生常任委員会の道外の視察研修の提案をこの間話したと思います。時期が2月3日から5日ってことで相手方にオファーしたところ、2月4日火曜日が名古屋市で大きなイベントが予定されてるってことで前後含めて厳しい日程だってことで、今若干日にちをずらして、その週の水、木、金、木曜日が表敬訪問と調査ってことで可能かの部分を確認とっています。その日程が駄目だったらあと名古屋市側の日程の都合を確認した中でこの日っていうのを指していただけたらその日で皆さんに周知して取りまとめたいと思っていますので、一応情報として提供いたします。

○議長（千葉 隆君） 日程変更になると。

○議会事務局長（野口義人君） あと1月の12日の日曜日、皆さんにご案内が届いていると思いますが二十歳の集い、シルバープラザで午後2時から開催されます。それで昨年同様、議会カフェのほうを開催したいということでブース設ける予定となっておりますので、一時間くらい前に午後1時くらいに皆さん集まった中で二十歳の集いを迎えて議会カフェですから、暖かい飲み物等を配っ

ていただけたらと思っております。LINEのほうで詳しい内容は千代係長から周知するので、午後2時からですが、1時から受け付け始まるので。

あともう一点、前に三澤議員さんから情報提供いただいて、長万部の高校生の取り組みとして主権者教育で長万部町の議会議場を使った中で、長万部町の高校3年生7名による政策提言の場が設けられることとなっています。それも来週の火曜日3時間目4時間目ってことで10時半くらいから長万部町議会の議場で開かれる予定となっておりますので、それも一方的にLINEのほうで周知しますので、あと参加できる方は各自で参加していただきたいと思います。

○議員（三澤公雄君） 高校の担当の先生がすごく熱心でそのことを高校も許可してる。八雲では全く違う状況でやられてる。

○議会事務局長（野口義人君） そして最後に、私どもの議会事務局の青木さんが今年度末をもって、退職したいということでした。議長のほうで承諾してございます。

ですから、次の人選ということで来月1月号の広報誌の中で議会事務局の一般事務員ということで会計年度任用職員を公募する予定となっておりますので、皆さんへ周知したいと思います。以上です。

○議長（千葉 隆君） あとなにか皆さんから。

（「なし」という声あり）

○議長（千葉 隆君） 議連のほうもあるので、これで終わります。

[閉会 午後 1時59分]